

グループホーム「ポランの家」通信

2011. 4. 28 NO33

余市町大川町 8 丁目 11 番地 TEL 0135-22-1577 発行責任者 橋本武雄

石狩湾の向こうに雄冬岬
窓から見える積丹の山脈(やまなみ)も
蒼く輝^{ひか}っています

柔らかな萌^{もえきいろ}黄色は
生命^{いのち}の胎動

ただ 今はそれさえも疎^{うと}ましく思えるかもしれない
被災地の多くの人たちに

深くこうべを垂れ

4月28日の^{しじゅうくにち}四十九日

静かなる御霊の旅立ちをお祈り致します



第5回
VAIORIN TO
ヴァイオリンと
PORAN NO HIROBA
ポランの広場

＝ヴァイオリンの音は 春の雪に輝き＝

広場の日: 2011年3月18日(金)午後2時

広 場: ポランの家

演奏 ヴァイオリン	牧野 時夫さん (北海道農民管弦楽団代表)
ピ ア ノ	板谷 知子さん (余市室内楽協会)

ヴァイオリンの音色は
レクイエム(鎮魂歌)から
始まりました

森山良子・作詞 歌
「^{なげ}涙 そうそう」

ページ
涙で頁が濡れる

ポランの家が加盟している北海道認知症グループホーム協会では 22 年度事業の一つとして「介護する人から介護される人への手紙」「介護される人から介護する人への手紙」「長年連れ添った方への手紙」等々「手紙綴る広場」を企画し、全道の方たちから募集をしたところ、お手紙(絵手紙も含みます)は 255 通になりました。ポランの家のご家族からも応募がありました。ありがとうございました。

そしてそのお手紙を冊子にして応募された方にお配りしました。私はこの編集、表紙デザインを担当した関係から、この冊子を手元に持っておりましたのでスタッフに読んでもらいました。

- ▼涙が落ちて本を濡らしてしまいました。ごめんなさい。
- ▼目を赤くして、「これから母のところに行ってきます。待っていると思うので……。」

私はこの話を聞いて、この冊子編集、発刊まで少々しんどかったのですが、「良かった、発刊の意味があった」と思いました……。

255 通の中から、詩人で児童文学作家の「藤川幸之助先生」に「心に残った 10 篇の手紙」を選評して頂きました。協会のホームページにその中から9篇の手紙と藤川先生からのメッセージが掲載されていますので、どうぞご覧下さい。きっと「優しい心の時間」を持たれることと思います。

ホームページアドレス <http://www.h-gh.net/>
トップページの「手紙 綴る広場」をクリックしてください。

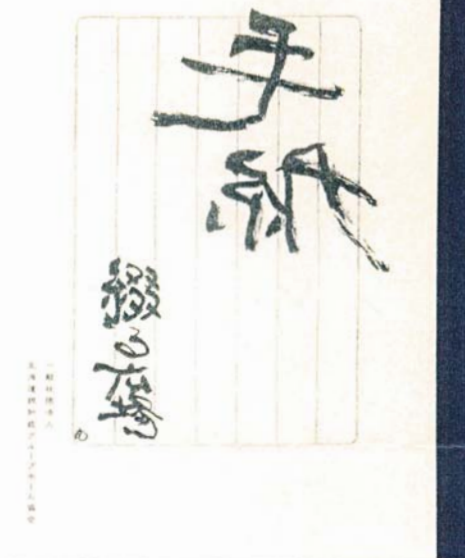
乳母車 三好達治

時はたそがれ

母よ 私の乳母車を押せ

泣きぬれる夕陽にむかって

りんりん
軽々と私の乳母車を押せ



ポランの家も皆で、義援金

ポランの家が加盟している北海道認知症グループホーム協会では、被災地のグループホームのための義援金活動を始めましたので、私たちスタッフも募金箱を用意し 3 月末に義援金を送りました。

皆が助け合おうとしている時、「福島ナンバーの車はどけ..」とか「福島県からの廃棄物搬入反対」、「転入届けに放射線検査済証添付」などと「私だけが、私たちだけが」よければ良いという態度は本当にやめてもらいたいものです。(怒りを込めて)

親たちの態度が、子どもたちの学校での「いじめ」になっています。

日本人同士がこのようであれば、外国からの観光客も来るわけないですね。

「我らの狂気を生き延びる道を教えよ」(大江健三郎)

ご家族の皆様へ



ポランの家のお雛様

W様のお誕生日



私も昔、
娘に「のんたんの
誕生日」を寝ながら読んであげました。



今日はお彼岸。皆で「ぼたもち」作り



父さんがね、「ぼたもち」大好きでね……
「おっきいの」沢山作ったものよ。



実習生企画のゲーム。4月18日からスタッフに変身。



実習生企画の「あやとり」。自分で「ホーキ」を作る人も。

日常の風景

ポランの家 フォトギャラリー



今日は明日のファイオリンコンサートのお客様のお土産と
「おやつ」とクッキー作り。おっとー！もう八つ時だい！



なあ〜に？ ウフフ とうさん